資料２

「自学園の現状を踏まえた小学校の在り方に関する意見」の各学園運営協議会における意見一覧表中、「概ねの方向感の整理」における委員の意見に対する考え方

三条市教育委員会

○　三条嵐南学園、一ノ木戸ポプラ学園、三条学園

「概ねの方向感の整理」のとおり

○　四つ葉学園

「概ねの方向感の整理」については記載されているとおりであるが、少しニュアンスが違っており、四つ葉学園としては、統合を検討すべき時期については三条市が今後の小中一貫教育の目指す姿を示した後、幅広く意見を聞いてから結論を出したいと考えている。

三条市が小中一貫教育を取り入れてから 10 年が経過しており、そのモデルが大崎学園である。このことを検証した上で、三条市がこれから目指すべき小中一貫教育の姿をまず示してもらいたい。その上で我々四つ葉学園としては、地域コミュニティの状況を踏まえ、住民の方々に説明し合意形成をしていきたい。

小中一貫教育制度は、少子化の影響においても、多様な異学年交流の活発化や中学校区を単位とした地域の活性化による地域力の強化などにより、子どもたちの社会性を育む上で有効です。そして、心身の発達を考慮した見通しのある教育の連続性を確保していくことで、子どもたち一人一人の生きる力の育成を図っていくものであります。

他方、ハードとしての学校の形式を捉え、小中一貫教育をより効果的に進めていくために学校施設の在り方を考える場合、一体校や義務教育学校制度を取り入れていくことが有効であることは言うまでもありません。

しかし、当該制度を取り入れていくためには、学校の新設又は改修に多額の建設事業費を要するものであることから、市の財政運営上、現状の小中学校の建物の健全度を勘案しつつ慎重に判断していくこととなります。

現下、少子化が歯止めがかからず急速に進行している中、統廃合等を始めとする学校の在り方を検討する上で学校施設の在り方については、現状の施設一体型や分離型において教育課程や学園運営を駆使しつつ、現実的な方向性を検討してまいりたいと考えております。

○　瑞穂学園

基本的に、「概ねの方向感の整理」のとおり

キーワードとしては、地域の中の学校であるということと、児童数が減っていくがその前に学校校舎の老朽化が先に来ることへの懸念であった。校舎の老朽化も並行して考えていかなければならない。

御指摘のとおり、当学園内の小学校については西鱈田小学校が昭和 48 年建設、月岡小学校が昭和 50 年建設であり、両校とも築 50 年前後の建築物です。

当市においては、必要な全ての学校で耐震改修を実施したほか、学校施設長寿命化計画を策定し建物の健全度を測りつつ、予防保全の考えの下、適宜適切に修繕・改修を実施しております。

また、学校施設長寿命化計画では、目標使用年数を80年以上としている中、市内では西鱈田小学校、月岡小学校の両校を始め他の学校校舎においても今後建替えの検討が必要となってきます。

学校建設に当たっては多額の建設事業費を要するものであることから、市の財政運営も十分考慮しつつ、慎重に検討していく必要があります。

○　三条おおじま学園

現状の児童数では、大島小学校は存続が難しいのではないかとの結論となるが、ただ簡単に小学校をなくすことはできない。市から統合に向かうべきとする方針が示されれば、自治会としてもそれぞれで話し合い意見をまとめて統廃合に向けて進めていきたいと考えている。

「概ねの方向感の整理」については、これでよいと感じている。

さらに、資料７の３によれば、須頃小学校の影響により、三条おおじま学園は他の学園と異なり児童数が増加していくとの結果になっているため、存続できるのではないかとも感じた。

未来の学校検討委員会の会議の中でも折に触れてお伝えしているとおり、教育委員会が統廃合の検討を開始する基準に該当していることをもって統廃合に舵を切るというものではなく、地域の御意見を最大限尊重した中で、地域の方々が統廃合の検討を開始して良いという合意形成がなされた、もしくは御意見の多くがその方向で検討を開始したいという御要望があれば、教育委員会としても統廃合の検討を開始する段階に移行してまいります。

学校の在り方に関する議論につきましては、この検討委員会や学園運営協議会だけで終わることではなく、更にその先の任意の議論が進んだ先に、地域の意見として統合されていくものと考えておりますので、そうした動きを実践していただきたいと考えております。

また、地域から教育委員会に対して検討資料を示して欲しいなどの要請があれば、協力させていただきます。

○　さかえ学園

基本的に「概ねの方向感の整理」のとおり

現状を踏まえれば統廃合検討の緊急性は感じておらず、引き続き、協議をしていく必要があるということ。その中で今後保育所等の保護者つまりこれから小学校に子どもを入学させる世代の人たちの意見を優先して聞く場を設け協議を継続していくべきと考える。

地域の中で小学校等の在り方について検討することは、この検討委員会や学園運営協議会だけで終わることではなく、さらに、その先の任意の議論が進んだ先に、地域の意見として統合されていくものと考えております。その中で、地域の子育て世代の意見を集約する取組も進めていただきたいと考えております。

また、委員から御提案がありました子育て施設利用者を対象としたアンケート調査につき

ましては、委員御指摘のとおり未就学児しかいない保護者は学校での生活が想像できないことから回答が得にくいこと、また、収集する地区などに偏りが出ることも予想されます。そこで、意見を聞く場として、教育委員会が小学校等の在り方についてアンケートサイトを用意して、学園に対する意見をweb上で募りたいと考えております。

○　しただの郷学園

しただの郷学園は、児童数の減少が顕著に現れているため、統廃合の検討を開始してほしいと考えている。

統廃合の検討の進め方は教育委員会から示されると思うが、統合するに当たっては、子どもたちも多様な中、大勢の輪の中になじめない子もいると思うため、そうした子たちのケア方法についても並行して検討を進めていただきたい。

加えて、近年の気候変動による夏場の暑さや、とりわけ下田地区については、近年の熊、猪、猿等による獣害が多発しているなど、これらからの子どもの安全を第一に考え、登下校の在り方も併せて検討をしていただきたい。

また、下田の保護者からは賛成の声が多数上がる中、少なからず反対、不安等の声も上がると思われる。先ほどの児童のケア方法にも趣旨は重複するが、そうした保護者の不安に対しても寄り添って検討を進めていただきたい。

さらに、地域から学校がなくなると地域が衰退するのではないかと懸念する声も上がる。地域を維持、存続させる体制づくりに努めていただきたい。

総じて、地域と保護者は、統廃合の覚悟（決心）をする時間が必要。教育委員会においては、そうした地域、保護者が覚悟する時間というものを丁寧に作っていただき、地域、保護者の良きパートナーとして寄り添っていただきたい。

それから、教育委員会が取りまとめた本日の資料中「方針区分」欄で、「どちらかというと統廃合が望ましいとする意見」の区分の表し方についてであるが、しただの郷学園は、これから統廃合について「検討」を進めていただければと思うので、統廃合が「望ましい」と表すと少し行き過ぎと感じた。しただの郷学園は、あくまでも統廃合の「検討」を進めていただきたい。検討する中で子どもたちにとって一番良い形になるよう我々も協力していきたい。

下田地区に係る大きな方向感としては、児童数の減少が著しいことから、地域において「懇談会」を開催し更に意見を聴取・交換していく場が必要であると考えております。

その上で、地域の大勢の意見が「統廃合の検討を具体的に進めていくことが望ましい」とされた場合、それを踏まえ教育委員会において小学校の統廃合準備に着手するべきか否かを決定いたします。

その後、保護者や自治会、学校関係者等で構成される合議体を立ち上げ、統廃合に向けて校舎や校名、通学方法等のほか、教育課程や校歌などの具体的な統合校の形や統合後の運営方法について決定していくこととなります。

御意見のあった、変化に対応していくための子どもたちのケア方法はもちろん、スクールバスの運行形態などについては、合議体の議論の中で検討を進めていくこととなります。

いずれの課題に対しても、子どもたちの実情を加味していくことはもちろん丁寧に地域、保護者からの御意見を伺い進めて行く必要があると捉えております。
また、空き校舎となった学校等の活用方法などにも議論が及ぶ、地域の活力を維持させていくことについては、別途一定の検討形態を取り進めていく必要があると考えております。

○　大崎学園

「概ねの方向感の整理」のとおり

○　校長会長

（あくまでも個人の意見ということであるが、）教育効果を得るためには、やはり一定の児童生徒数が必要と考えている。著しく小規模な状況が継続する場合には検討を開始するということで我々も考えている。

著しく小規模な状況が継続する場合には、教育委員会から地域に対して情報提供する中で今後についての問題意識を共有してまいりたいと考えております。

○　幼児の保護者

すぐに統廃合という前に、同学区や同年等の関係なしに交流の場が持てる環境など、統廃合で一緒になる前に子どもたちが他の学年や他の学区の子と交流をしてできれば、子どもたちも準備できるのではないかと考えた。

三条市は小中一貫教育の一環として、全ての学園内で異学年交流（同じ学校内の違う学年同士の交流）、小小連携（学園内の小学校同士の交流）、小中連携（学園内の小中学校の交流）などを実践しております。
今後、統廃合の検討をする際には、そういった視点を更に意識してまいりたいと考えております。

○　公募委員

提出したこと以上には、特になし